

# 福井の戦国 歴史秘話

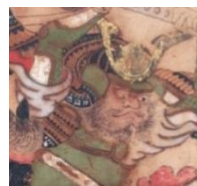
<第7号>

平成29年8月31日発行

## 実戦で大太刀を振るった勇将、真柄十郎左衛門！

織田・徳川連合軍と浅井・朝倉連合軍の死闘を描いた姉川合戦図屏風。そこには、ひときわ長い刀で戦う武将が描かれています。今回は、越前朝倉氏の家臣で、日本一の大太刀使いとして勇名を馳せた武将、真柄十郎左衛門（直隆）を取り上げます。

真柄十郎左衛門は、天文5（1536）年に生まれ、朝倉義景の客将となり、越前味真野真柄（現在の福井県越前市）に居館を構えました。十郎左衛門は、越前の刀匠、千代鶴国安の作による五尺三寸（約160センチメートル。刀の長さには諸説あり。）もの大太刀「太郎太刀」を振り回して戦ったことで知られ、男の5人力だったという母親ゆずりの怪力で、身長は約2メートル、体重は200キログラム以上だったと伝わっています。



真柄十郎左衛門  
姉川合戦図屏風

（福井県立歴史博物館蔵）

永禄8（1565）年、室町幕府の政変により、将軍、足利義輝が殺害されます。義輝の弟、足利義昭は將軍位の回復のため朝倉義景を頼り、永禄10（1567）年、一乗谷に移りました。翌年の観桜の宴に、こんなエピソードが残っています。義昭の家来が“越前の真柄は無双の大力で、大太刀使いとしてその名は天下に鳴り響いている”と述べ、十郎左衛門が呼ばれました。十郎左衛門は、二本の大太刀を受け取ると、軽々と頭上で数十回振り回し、豪傑ぶりを披露。皆は、“夜叉神も及ばない”と感嘆したといひます（『朝倉始末記』）。再起を狙う義昭らには、その勇姿は、心強く映ったに違いありません。

しかし、その後、足利義昭は織田信長とともに上洛。15代将軍となります。朝倉義景は、信長の再三の上洛要請を拒否。浅井長政は同盟関係にあった信長を裏切り、元亀元（1570）年6月、浅井・朝倉軍と織田・徳川軍が戦う姉川の合戦に至りました。この戦に、大太刀を実戦で使ったエピソードが残っています。

徳川軍は、別動隊で朝倉軍の側面を攻撃。大将、朝倉景健が危うい状態となりました。怪力の十郎左衛門は、大太刀を四方八方に振り回し、周りの四、五十間四方は、田んぼを耕したように屍が転がったと言います。その後、徳川四天王の一人、本多忠勝がこの進撃を止めに入り、入れ代わって匂坂式部（さぎさかしきぶ）ら4人が攻撃。十郎左衛門は“唯四人で我に向かうは殊勝なり”と応戦。4人との奮戦の末、鎌槍でかけ倒され、最後は、“あっぱれなり、いざ鬼真柄の首をとって武士の誉れにせよ”と敵に首を献上して果てたといひます。

この戦いの様子は、姉川合戦が描かれた日本で唯一の屏風、「姉川合戦図屏風（福井県立歴史博物館蔵）」に描かれています。匂坂式部に大太刀を振りかざす真柄十郎左衛門は、第二扇から第三扇に登場し、古今を通じて、最も大きな太刀を実戦で使ったと言われる十郎左衛門を今に伝えています。

朝倉義景のもと、天下一の大太刀使いとして名を馳せ、最期は姉川に散った真柄十郎左衛門。彼の武勇は、無類の大太刀とともに、永遠に語り継がれていくのです。

<参考資料> 『ふるさと味真野』、『北陸の豪勇、真柄十郎左衛門と大太刀、そしてその一族と産業の関わり』

### ～戦国ふくい歴史紀行～ [千代鶴神社]

真柄十郎左衛門の「太郎太刀」を製作したとされる千代鶴国安を祀る神社。千代鶴は、越前鎌の製作技術を発明し、地域の鍛冶屋に伝授したことから、越前打刃物の祖とされています。

【住所】越前市京町2-4（JR武生駅より徒歩10分）



千代鶴神社

### ★お知らせ 特別公開展「朝倉家臣団 ～重臣鳥居氏と堀江氏」開催中！

- ・平成29年9月12日（火）まで、一乗谷朝倉氏遺跡資料館で開催中（9:00～17:00）※期間中無休
- ・多様な朝倉氏の家臣について、遺跡の出土品と福井県内各地に残る資料をもとに紹介します。

【住所】福井市安波賀町4-10 【問い合わせ先】0776-41-2301

（発行者）福井県 （問合せ先）福井県観光営業部ブランド営業課 前田、塚本 ☎ 0776-20-0762